作文コンクール“Leading to the Future 未来に向かって～教育・夢・感動～”

2021年 最優秀賞作品「転機」

大阪府立貝塚南高等学校2年　木下　あゆみさん

「後ろを向くな。前を向け。」

この言葉は、私が、中学校を転学した際に先生からいただいた言葉で、今の私を作った言葉でもある。

私は、和歌山県の私立中学校を受験し、入学した。進学校といわれるその学校では、毎日多くの課題やテストがあり、とても大変だった。勉強は苦手だったが、友達がたくさんでき、学校生活は楽しかった。そんな学校生活を送っていた中学二年生の夏、立っていられないほどの激しい頭痛に襲われ、診察を受けて即入院した。数日後、昏睡状態に陥った。そして、自己免疫性辺縁系脳炎と診断された。両親は、医師から、「意識が戻るのは一年後になるかもしれない。」と告げられた。もちろん、学校へ行くことも勉強することもできなかった。奇跡的に一ヵ月後、意識を取り戻したが、立つ、座るなどの基本動作のリハビリから始めたため、学校に復帰できたのは二ヵ月後だった。病気の後遺症からか、以前はできていた簡単な小テストが解けなかったり、友達とスムーズに会話したりすることができなかった。そんな時、当時の担任の先生が、献身的にフォローしてくださった。他の先生方に話をしてくださったおかげで、一対一で補習をしてもらうことができた。また、学力的・体力的な問題で学校に行けなくなった期間、毎日電話をかけて励ましてくださった。そして、転学届を出す時、先生から冒頭の言葉をいただいたのである。

私は「病気にさえならならければ。」とネガティブに考えてしまうことが多かった。しかし、先生からあの言葉をいただいたおかげで、病気になったことを引きずるのではなく、自分ができることを全力で頑張ろうとポジティブに考えられるようになった。現在、私は中学生とは異なる環境で学校生活を送っている。授業中、進んで発言したり、学級委員に立候補してクラスをまとめたりした。その結果、自分に自信がつき、何事にも積極的に取り組むようになった。先生は私の後ろ向きになっている気持ちを変えただけでなく、私の未来の可能性までも広げてくださった。今、私は学校を転学したことについて、一切後悔していない。この経験があったことで自分の成長を感じ、新たな自分と出会うことができたからである。

自分が先生にしてもらった経験を活かして、思春期で悩みの多い中高生の心に寄り添い、自分自身も生徒と共に成長していけるような教師になることが私の夢である。